



平成23年4月19日

岡山大学理学部附属臨海実験所が教育関係共同利用拠点に認定

概要： 岡山大学理学部附属臨海実験所（瀬戸内市牛窓町鹿忍）が、「内海域の生物を用いた実験教育のための共同利用拠点」として、文部科学大臣による「教育関係共同利用拠点」に、臨海・臨湖実験所分野では初めて認定された。認定期間は平成23年4月1日～平成28年3月31日。中四国・九州の関連施設の拠点として、また、高度な実験、生物学実習の全国的な拠点として期待される。

<内 容>

「教育関係共同利用拠点」は、平成21年9月に創設された文部科学大臣の認定制度で、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供するために、大学が有する人的・物的資源の共同利用等を推進していくものである。全国には国公立大学の臨海実験所が約20カ所、それを超える数の水産実験所があるが、本実験所は、平成22年度公募に対し申請していたところ、平成23年4月1日付けで臨海・臨湖実験所は全国で4件及び水産実験所1件採択のうち、中四国・九州唯一の拠点として認定された。

本実験所は、これまでの実績や高度なノウハウの蓄積、豊富な学習メニューなどを高く評価され、認定の後には、更に、至便な環境のもと多様な生物、先端設備、生体制御学を主に分子から生態まで教育研究を行うことにより、一般的な臨海実習に留まらない多彩な実習教育の機会を国内外の大学等に提供し、広く科学に関わる人材の育成を目指す。

<見込まれる成果・特徴>

本拠点は、生物学をはじめとした幅広い科学の実践的・体験的教育の貴重なプラットフォームになりうる。具体的には以下のような教育が、多様な大学の共同により、効果的かつ簡便に実施できる。これを、施設を保有しない大学だけでなく、全ての関連大学の教育に開放することで、文科系、理科系を問わず、高等教育の質の向上に貢献することができる。また、海洋基本法制定によりニーズが増加した、海洋学に精通した研究者・技術者や海洋教育に携わる人材の育成に直結する。

- ・基礎臨海実習：生物多様性や環境問題といったグローバルな課題の理解にも繋がる。
- ・実験生物学先端実習：生物学一般に精通した研究者・技術者が育成できる。
- ・異分野融合合宿教育：広い分野の教育が支援され、共通テーマ「海」の学際教育が可能となる。
- ・多大学連携実習：地域の科学教育の活性化や、生体制御学分野を担う人材の育成に繋がる。

（別紙図を参照）

（参考）平成22年度「教育関係共同利用拠点」の認定について [文部科学省ホームページ]

http://www.mext.go.jp/b_menu/（予定）

<お問い合わせ>

岡山大学理学部附属臨海実験所
所長 坂本 竜哉
（電話番号）0869-34-5210
（FAX番号）0869-34-5211



岡山大学

PRESS RELEASE

